

『みねさんの ああ、そうなんだ塾』 【第1回】

ごあいさつ ならびに これからの予定

はじめに

こんにちは、みねさんです。きょうからキリスト教の〈教理〉（カトリック教会が《真理》と認めている教え・信仰の基礎となる理論）についてお話していくことになりました。第1回は、これからの『ああ、そうなんだ塾』の内容と予定についてお話しします。

私は、洗礼を受けてまだ11年目の新米信者。このコーナーを受け持つことは、大きな宿題を背負わされた小中学生のように感じました。しかし、神父様、そして教会委員長さんの“ご命令”です。でも、「オレには『カトリック教会のカテキズム』（カトリック中央協議会）に書いてあるようなムズカシイことは、とてもじゃないけど話せないよ。自分自身がまだ十分理解していない箇所もあるのに、これからキリスト教を知りたい・学びたいという方々に話せったってムリだよ。」という思いばかり頭に浮かびました。いろいろ悩んだ末、

- ・「これまで読んだ小説の中から、私にとって信仰を深めるうえでとても役立ったものを使って見たらどうか？」。
- ・「その小説の余白に潜む《聖書》や《イエス様》の言葉を汲み上げることによって、《真理》に迫れるのではないだろうか？」
- ・「ということは、私がキリスト教に興味・関心を持つきっかけを与えてくれたカトリック作家・遠藤周作氏の小説だ！ 氏の作品ならほとんど読んだ私にもできそうだ。」……と考えました。

そしてその中で、聖書の言葉・内容やイエス様の言動を、できるだけ〈やさしく〉そして〈ふかく〉書くために、毎年上智大学で開かれる『上智大学 夏期神学講習会』での講師のお話や、それをまとめた出版物を引用します。また、ヘンリ J.M. ナウエン師、ジャン・バニエ師らの司祭、皆さんおなじみの福者マザー・テレサの著書、さらに『ケセン（岩手県気仙地方＝大船渡市、陸前高田市、住田町、釜石市唐丹町）語聖書』を作成された山浦玄嗣（やまうら・はるつぐ）氏の『ガリラヤのイエシュア』も大いに活用しようと考えています。

私は遠藤氏とともに、同じカトリック作家・井上ひさし氏を尊敬しています。『吉里吉里人』、『父と暮せば』など、小説はもちろんのこと、戯曲作者として、加えて日本語の素晴らしさを伝え、さらに『9条を守る会』などで平和を訴えた方です。〈現代の戯作者〉〈才気煥発機知縦横〉〈抱腹絶倒〉〈綺想とナンセンスの作家〉〈聖母の道化師〉…など、さまざまな表現で語られる多面性、多様性を持った作家として活躍しました。（私は〈魔法使い〉をもじった〈コトバ使い〉というのが井上サンにピッタリだと思っています！）

井上氏は小説や戯曲を書く時、

むずかしいことを やさしく / やさしいことを ふかく

ふかいことを ゆかいに / ゆかいなことを まじめに …

をモットーとしていました。私はこの言葉をいつも意識しながら書いていこうと思います。

これからの予定

まず、遠藤周作氏の本から『わたしが・棄てた・女』という作品を取り上げます。題名を見て、「えっ、なんだって?!」と、驚かれたのではないのでしょうか？ 遠藤氏といえば『沈黙』、『イエスの生涯』、そして『深い河』などの純文学作品と言われるものや、〈狐狸庵先生シリーズ〉を思い浮かべる方が多いでしょう。しかし、「遠藤氏の本の中で、ベスト3を挙げよ」と言われたら、この本をトップか2位に位置付けます。

私はこの本を、20歳のときに読みました。泣きました。いや、号泣しました。最初はそのおかしさにゲラゲラ笑っていましたが、読み進むにつれて背筋を伸ばしながら読んでいく自分に気づきました。主人公の一人〈吉岡努〉という男に〈自分〉が重なったからです。そして、クライマックス ― 。泣きました。本を読んで涙を流すなんて、それまではロマンティックな文学少女がすることだ… と思っていましたが、号泣（おおげさではありません）している自分がいました。

みなさんには、この本を読んでいただくのがいちばんなのですが、お忙しい毎日を過ごしていらっしゃる方々が大多数ではないかと思しますので、必要に応じて《ダイジェスト版》を書きます。その中で、見逃してはならない文章や言葉を引用して、解説をします。文章の〈余白〉、あるいは〈底流〉に潜む信仰に関する重要な語句・聖句を取りあげようと思います。

具体的に書きますと、主人公・森田ミツと吉岡努の人生と出会いの物語を通して、〈罪〉・〈愛〉・〈救い〉・〈隣人〉・〈赦し〉… などのキリスト教信仰に関する大切な言葉を説明していこうと考えています。

また、〈やさしく〉・〈ゆかいに〉、そして〈ふかく〉キリスト教の教を学んでいただくために、私自身のこれまでの人生における様々な出会い、経験、そして洗礼を受けたあとの恵みなども織り交ぜながら進めていきたいと考えています。

みなさまのご期待に応えることができるかどうかわかりません。特に、〈むずかしいことをやさしく〉書けるかどうか……。私は神学者でも、大学教授でも、聖職者でもありません。ただの平信徒です。最初に申し上げように、多くの著作物の助けをいただき、自分の経験をはさみながら書いていきます。不安いっぱいですが、とにかく〈大海〉に向かって舟を漕ぎ出そうと思います。

「なんくるないさあ〜」

私の長男は今、沖縄に住んでいます。何度も行くうち（主な目的は、阪神タイガースの春季キャンプを見ることなのですが！）沖縄の方言で、「なんくるないさあ〜」という言葉を知りました。大好きな言葉です。「なんとかなるさ〜」という意味です。何か投げやりで無責任な言葉にも聞こえますが、私にとって「なんとかなるさ〜」を深いところで支えているのは、《信仰》です。それがなければ、自分の人生を左右するようなことに対して、こんな気持ちにはなれないでしょう。でも今、「何があっても必ず、神様は私の傍らにいらして、共に苦しみ、共に悲しみ、共に喜んでくださっている。」という確信があるからこそその「なんくるないさあ〜」なのです。では、ご一緒に出航しましょう！